

# Book Review

## 写真でわかる 子どもの矯正治療ガイド お子さんの口の中、こうなっていませんか？

石川 基 著



Reviewer

加治彰彦 Akihiko Kaji

(東京都・半蔵門ファミリア矯正歯科医院)

AB判, 56頁

カラー

定価 3,960円 (本体 3,600円+税)

医歯薬出版刊



本書はいわゆる矯正の第Ⅰ期治療について一般の保護者向けにわかりやすく書かれたものである。第Ⅰ期治療の目的は本書でも書かれている通り、①すでに起こっている大きな問題を改善すること、②これから起こりうる大きな問題を予防すること、である。

よく保護者から、“子どもの早いうちに矯正を終わらせてあげたい”とお願ひされることがあるが、必ずしも第Ⅰ期治療で矯正が完結するわけではない。第Ⅰ期治療は著者も述べている通り、第Ⅱ期治療（仕上げの矯正、本格矯正）をスムーズに進め、良好な結果を得るための準備段階的な矯正治療と捉えることができる。

近年、日本では少子化の影響もあるためか、保護者の子どもの歯並びに対する関心が高まっている。保護者のこの関心（要求）に応えるべく、歯科医側も第Ⅰ期治療を盛んに行っているようであるが、なかには無益ではないかと考えられるものもある。一例として、非抜歯矯正を目的とした歯列の拡大があげられる。保護者（患者）にとって非抜歯による矯正は魅力的に感じられるであろうが、第Ⅰ期の段階で相当

の叢生が認められ、将来的に抜歯により側貌の改善が必要と予測される場合は、第Ⅰ期治療で拡大したとしても、結局、後に抜歯が必要となり、保護者と患者を落胆させてしまうことになる。また、患者が引き続き必要となる治療に対する熱意を失い、燃え尽きてしまうこともある。

このような事例では、拡大によって歯並びが一時的に改善することにより保護者を一時的に満足させることはできるであろうが、結果的に、より多くの労力や時間を費やし、場合によっては子どもにストレスを与えかねない。矯正治療は諸刃の剣であり、使い方を誤ると、患者・術者の双方が不幸になりかねない。

本書の冒頭にも書かれているが、スウェーデンでは国が必要と認めた矯正治療は保険適応となる。したがって、客観的にみて機能のおよび審美的にも問題とならないとみなされる不正咬合は保険適応外となる。保険適応となるかどうかの線引きは難しい面もあるが、スウェーデンでは、国民がスクリーニングを経て矯正治療の恩恵を受けている。

国の財政やマンパワーは限られているため、治療は最小限の介入で最大限の効果が出るのが求められる。喩えが適切ではないかもしれないが、治療介入という名の弾を使って良好な治療結果というのを撃ち抜こうとする際に、マシンガンでやみくもに乱射するのではなくスナイパーのように一発必中することが望まれる。矯正治療では弾数をできるだけ消費しないほうが、財政にも患者にも優しいといえるだろう。スウェーデンに優れたスナイパーばかりがいるわけではないが、今の日本ではマシンガンを使っている人が多い気がしてならない。

今回、石川先生の本を通読して、石川先生が優れたスナイパーの資質をもっていることが確認でき、同ジエテボリ大学矯正歯科専門医育成コースを修了した者として喜ばしい気持ちになった。本書は一般の保護者のみならず、歯科医師、歯科衛生士にとっても、患者さんから矯正が必要かどうか相談された際のガイドブックとして役立つであろう。